



JAグループは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、組合員、地域から「必要とされ、なくてはならない存在」となることを目指し、さまざまな取り組みを展開しています。

未来を拓く協同組合

教えて!

日本農業

監修=JCA(日本協同組合連携機構)

第32回



加工・業務用需要

農畜産物の需要は、以前は家計消費が主体でしたが、社会構造・消費構造の変化に伴って、昭和50年代以降に食品メーカー等向けの加工用、外食・中食企業等向けの業務用が増えてきました。今では加工・業務用の需要が、野菜で全体の6割、米で3割を占めています。こうした変化に対応してJAグループはマーケットインに基づく生産や販売を徹底しており、2019年度には全国のJAの56.6%が加工・業務用需要に応じた契約販売に、52.8%が実需者のニーズに応じた出荷規格・数量設定に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、加工・業務用野菜の多くを輸入に頼っていることの課題が浮き彫りになりました。食料安全保障の強化のため政府は、加工・業務用野菜の国産への切り替えを推し進める方針を打ち出しています。

野菜

加工・業務用および家計消費用の国内仕向け量(主要品目)



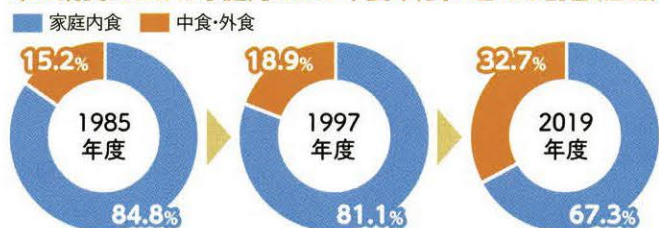
加工・業務用野菜の国産割合(主要品目)



注:主要品目として指定野菜(13品目)を用いて試算(キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ピーマン、レタス、たまねぎ、ほうれんそう(ぼれいしよを除く))

米

米の消費における家庭内および中食・外食の占める割合(全国)



農水省資料をもとに作成



耕そう、大地と地域のみらい。

(JA広報通信より)

JA広島市の自己改革

地域農業の発展と生産者の意欲向上 — 農産物品評会 —

毎年、秋に管内各地で開催している「農業祭・ふれあいまつり」ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度はやむを得ず中止といたしました。しかし、例年農業祭と同時開催していた「農産物品評会」については、地域農業の発展と生産者の意欲向上の観点から東区、安佐南区、安芸区矢野の3会場で開催。東区農産物品評会では、毎年好評の中山喜楽会園芸部による菊花展も同時開催しました。また、白木町農事研究会では、農産物品評会に代えて、収穫前の農産物を圃場で審査する立毛品評会を夏から冬にかけて、品目別に順次実施しています。



東区農産物品評会(11/19)



出品された農産物は、例年農業祭来場者へ即売会で販売するなどしていましたが、今年度はそれに代わる企画として、矢野町農産物品評会では「農彩館 矢野とれとれ市場」で買物された方に抽選でプレゼント。また、安佐南区農産物品評会では初の試みとして、子ども食堂や高齢者を対象とした活動を行う団体や大学などで活用してもらおうと、安佐南区社会福祉協議会を通して寄贈しました。



安佐南区農産物品評会(11/21)



矢野町農産物品評会(11/28)



白木町農事研究会立毛品評会【プロックリーの部】(11/17)